

八寸地区の歴史一冊に

伊勢崎 住民が聞き取り地域誌

戦争の記憶や権現山の自然、環境…

伊勢崎市八寸地区の歴史を語り継ぐと、八寸地区地域誌編集実行委員会（久保田卯会長）が、住民からの資料提供や聞き取り調査を基に「伊勢崎市八寸地区の歴史」（A4判、167ページ、1200円）を刊行した。

八寸地区は現在の日側、権現山を中心とし乃出町下諏訪区、同町た地域を指す。権現山神谷区、豊城町、上諏訪にある蓮神社を氏神訪町で、旧蓮村の東としている。



久保田会長（中央）ら50人が編集にたずさわった「伊勢崎市八寸地区の歴史」

同実行委は2009年に発足。戦争の記憶を聞き取り調査することや、時代の証言となるような写真、資料を収集、記録することに重点を置いた。編集委員ら約50人が3年余りかけてまとめた。特に八寸地区の象徴である権現山は、自然環境、史跡、石造物、蓮神社などについて詳しく解説している。また住民からの聞き取りでは、伊勢崎空襲や戦時中の食料不足、奉安殿の思い出などが語られた。このほか、地区の祭りや地元で伝わる民話、農具についても収められてい

る。
久保田会長は「歴史を残すことの大変さを実感した。新しくこの地区に住み始めた人たちにもぜひ見ていただきたい」と話した。



生け花鮮やか
現代的な美を

きょうまで前橋

色鮮やかな生け花が
並ぶ会場

前橋市内で生け花とフラワーアレンジメントの教室を開く荒牧真理さんの生徒9人の作品発表会が8日まで、同市南町のライフアップスクエアアイズで開かれている。
教室10周年の節目を迎えたことから、生徒に発表の機会を提供す

るとともに、多くの人に花に親しんでもらうと初めて開催。荒牧さんは同市富士見町の自宅のほか、発表会場でも月4回指導している。

会場には青い瓶にアレンジのチューリップを生けた作品や、花柄の食器にピンクのバラや黄色いチューリップ